

地方独立行政法人福岡市立病院機構
第2期中期目標期間の業務実績に関する評価結果報告書

平成29年7月

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会

目 次

はじめに	1
第1項 全体評価	2
第2項 大項目評価	4
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	12
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	32
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	38
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	50
〈参考資料〉	
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 業務実績評価の方針	63
○地方独立行政法人福岡市立病院機構 中期目標期間評価実施要領	65

はじめに

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会は、地方独立行政法人法第30条の規定に基づき、地方独立行政法人福岡市立病院機構の第2期中期目標期間(平成25年度から平成28年度)における業務実績の全体について総合的に評価を実施した。

評価に際しては、本評価委員会において、平成22年11月10日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構業務実績評価の方針」(63 ページ参照)及び平成25年1月30日に決定した「地方独立行政法人福岡市立病院機構中期目標期間評価実施要領」(65 ページ参照)に基づき評価を行った。

地方独立行政法人福岡市立病院機構評価委員会 委員名簿

	氏 名	職 名
委員長	寺 坂 禮 治	福岡市医師会 副会長
副委員長	福 田 治 久	九州大学大学院医学研究院 准教授
委 員	一 宮 仁	浜の町病院 院長
	花 岡 夏 子	福岡県看護協会 会長
	行 正 晴 實	公認会計士

第1項 全体評価

評価結果及びその判断理由

〈評価結果〉

第2期中期目標期間における業務実績に関する大項目評価については、下表及び4ページ以降に示すように第1から第4までの全ての項目において、評価A(目標どおり達成している)と判断した。

この大項目評価の結果を踏まえ、第2期中期目標期間の4年間(平成25～28年度)においては、福岡市の医療施策として求められる小児医療、周産期医療、高度専門医療、高度救急医療、感染症医療の提供体制の更なる充実・強化や患者サービスなどの向上に取り組んだことにより、良質な医療の実践が図られるとともに、経営の効率化に努めたことにより、経営基盤の強化が図られていることなどから、「全体として中期目標を十分に達成している」と評価する。

〈判断理由〉

福岡市の医療施策として求められる高度専門医療、高度救急医療等を引き続き提供するため、こども病院においては、新病院への移転・開院を無事に完了するとともに、各種センター化・診療科の新設、医師の増員など、小児・周産期医療の更なる充実を図っている。福岡市民病院においては、救急診療棟の増築や診療部の新設、医師の増員など、高度専門医療、高度救急医療の更なる充実を図るとともに、第二種感染症指定医療機関として、専門医の配置やマニュアルの整備などの体制整備も行っている。それらに加え、両病院ともに、地域医療支援病院としての役割を更に高めるため、積極的な病病連携・病診連携に努めていることに加え、災害発生に備えた相互応援体制の強化、熊本地震の発生における医師の派遣や救済物資の支援など市立病院として求められる役割を果たしている。

また、患者のニーズを的確に捉えた上で、患者サービスの向上を図るとともに、研修体制の充実や資格取得の奨励により、職員の資質向上や専門職としての知識・技術の向上を図っている。

さらに、両病院ともに、病院長のリーダーシップのもと、医療情勢の変化や患者のニーズに効果的に対応ができるよう、病院の実態に即した機動性の高い病院経営に取り組んでいる。

こうした取組みの結果、病床利用率の向上や手術件数の増加などによる医業収益の増加に加え、診療材料等の選定や価格交渉の徹底などによる費用削減の取組により、法人全体として当期純利益を確保し、着実に経営改善を図っている。

項 目	年度評価結果				第2期中期 目標期間の 評価結果
	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	
第1 住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	A	A	A	A	A
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	A	A	A	A	A
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	A	A	A	A	A
第4 その他業務運営に関する重要事項を達成するためとるべき措置	A	A	A	A	A

※ 年度評価結果「A」は「計画どおり進んでいる」。中期目標期間評価結果「A」は「目標どおり達成している」。

特筆すべき取組み

1 こども病院

- 新病院への移転・開院(平成26年度)
- 各種センター化・診療科の新設
- 患児家族滞在施設(ふくおかハウス)開所(平成27年度)
- 国家戦略特区の活用による, 産科病床6床の増床(平成27年度)
- 熊本地震における, 医師の派遣及び救急搬送患者の受入れ(平成28年度)

2 市民病院

- 救急診療棟の増築(平成26年度)
- 感染症病床の設置(平成26年度)
- 新型インフルエンザ等対策特別措置法における「指定地方公共機関」の指定(平成27年度)
- 災害時における医療機関相互応援に関する協定の締結
- 熊本地震における, 医師の派遣や患者の受入れ・搬送などの支援(平成28年度)

3 両病院共通

- 災害発生に備えた応急薬品等の備蓄及び防災マニュアル整備
- 事務職員人材育成プランの策定及び同プランに基づく人事異動の実施(平成25年度)
- SPDの本格導入による院内物流・在庫管理の効率化(平成28年度)

4 法人全体

- 経営管理諸表による経営状況の検証や四半期ごとの課題分析等による経営管理の徹底
- 本部事務局の新病院内の移転により, 事務処理を効率的・効果的に遂行できる組織体制の構築

今後改善を期待する取組み

○医療を取り巻く環境は, 市立病院のみならず厳しくなる一方である。その中で人件費, 委託費を上げないようにしっかり頑張っていたきたい。

医療材料費にかけるコストを下げる努力だけは絶えず続けていたきたい。

○市からの運営費負担金を年々, 少しずつでも縮減していたきたい。

○こども病院は, 重症患児の受入れが行われていることから, 逆紹介率を上げることは容易ではないと思うが, 退院した患児に対応できる訪問看護ステーションが少ない現状もあることから, 地域医療連携の一つとして, 訪問看護ステーションの看護師の教育を含めた看護職の質の向上に更に力を入れていたきたい。そのことが逆紹介率の向上の一助となるものと期待する。

その他

○こども病院は福岡市だけでなく, より広い医療圏での小児医療の提供が着実に進んでいる。

○こども病院がアイランドシティへ移転する際に危惧されていた様々な懸念は, いずれも解消されている。例えば, 救急の受入れでは勤務体系の整備などにより, 殆ど不都合が生じていないということが検証されている点がすばらしい。

○こども病院のジェネリック医薬品の導入率が非常に高いことがすばらしい。

○市民病院で特に逆紹介率が際立って高いのは, 地域の拠点病院としての機能を果たされているということであり, 引き続き取り組んでいたきたい。

○市民病院は, 現在の立地条件等により建替えがままならない状況の中, 大変ながらも, 救急医療などでよく頑張っている。

第2項 大項目評価

別紙 第2期中期目標期間業務実績報告書のとおり